

## 博物館、名所と旧跡

### アルガルヴェ

#### Faro

Villa Romana de Milreu

住所： Centro Interpretativo das Ruínas de Milreu Coiro da Burra, Estoi 8000-443 Faro

電話： +351 289 997 823 ファックス： +351 289 997 823

Eメール： milreu@culturalg.pt ウェブサイト： <http://www.culturalg.pt>

**その他の情報:**

ガイドツアー（要予約）があります。

**特色とサービス:**

ショッピング; ガイドツアー; レストラン;

ミルレウ (Milreu) の遺跡 紀元1世紀または2世紀のローマ時代につくられたミルレウのヴィラ (住居) は、4世紀に改築され、6、7世紀ごろまで使用されていました。現在は国の史跡に指定されています。今でも1世紀に建造され2世紀および4世紀に改築された大邸宅や農業用施設、浴場、そして神殿の構造を見ることができます。

#### Portimão

Monumentos Megalíticos de Alcalar

住所： Centro Interpretativo dos Monumentos Megalíticos Alcalar 8500-120 Mexilhoeira Grande

電話： +351 282 471 410

Eメール： alcalar@cm-portimao.pt ウェブサイト： <https://culturaportugal.gov.pt/pt/conhecer/local/drcalgarve/monumentos-megaliticos-de-alcalar/>

**その他の情報:**

ガイドツアー（要予約）があります。

**特色とサービス:**

ショッピング; ガイドツアー;

**バリアフリー案内:**

身体の不自由な方でもアクセス可能;

アルカラル (Alcalar) の巨石建造物 元は12の回廊墓からなっていた共同墓地であり、巨石でつくられた単純な墓室から、両側に壁龕 (へきがん) のある疑似アーチまで、幅広い建築上の問題解決策や建築技術を示しています。

#### Tavira

Villa Romana da Abicada

住所： Quinta da Abicada 8500 Mexilhoeira Grande

電話： +351 289 896 070 ファックス： +351 289 803 633

Eメール： geral@culturalg.pt ウェブサイト： <http://www.culturalg.pt>

**その他の情報:**

ガイドツアー（要予約）があります。

**特色とサービス:**

ガイドツアー;

キンタ・ダ・アビカダ (Quinta da Abicada) のローマ遺跡 列柱に囲まれた六角形と四角形の2つの中庭と、モザイク・タイルを敷きつめた道があるローマ時代のヴィラ (住居) です。この遺跡からは、1世紀から2世紀にかけての遺物が見つかっています。幾何学模様の多彩色のモザイクがこの遺跡の見どころのひとつです。

Estação arqueológica romana da Luz

住所：Luz

ルース（Luz）の古代ローマ遺跡 19世紀に発掘されたローマ時代のヴィラ（住居）であり、主な見どころに、ローマ浴場、さまざまな附属建造物、およびモザイク・タイルが敷き詰められた道などがあります。また、魚の塩漬け用タンクのある複合的な産業施設も発見されています。

## Vilamoura

Museu e Estação Arqueológica do Cerro da Vila

住所：Av. Cerro da Vila8125-403 Vilamoura

電話：+351 289 312 153 ファックス：+351 289 302 783

Eメール: cerrodavila@vilamouraworld.com ウェブサイト：

<https://www.vilamouraworld.com/cerro-da-vila-museum/>

### バリアフリー案内:

身体の不自由な方でもアクセス可能; 入口へのバリアフリー経路: 全部;  
バリアフリー入口: 全部; 特別なお手伝いが必要な方の受付エリア;  
建物内のバリアフリー通路: 全部; バリアフリーのエリア/サービス:  
身体障害者用設備;

セロ・ダ・ヴィラ（Cerro da Vila）のローマ遺跡（セロ・ダ・ヴィラ博物館・考古学センター）3世紀に建設されたヴィラ（住居）です。考古学的調査によって、このヴィラには、ローマ時代から西ゴート時代を経てアラブ時代（紀元前1世紀から紀元11世紀まで）まで、人が住んでいたことが示されています。主な見どころには、港に隣接する居住区、浴場、魚の塩漬け工場などがあります。

## アレンテージョ

### Almodôvar

Povoado das Mesas do Castelinho

住所：Mesas do Castelinho-Herdade do Monte Novo

メーザス・ド・カステリーニョ（Mesas do Castelinho）居住地  
第2鉄器時代 / ローマ時代の居住地がのちに要塞になり、イスラム時代に再び人が住むようになりました。

### Alter do Chão

Estação arqueológica de Alter do Chão

住所：Ferragial d'El Rei

アルテール・ド・シャンの遺跡  
この遺跡には、モザイクの複数残る建物や、浴場跡があります。この遺跡はアントニオ(António)の旅行記に出てくるアベルテリウム (Abelterium) という小規模な居住地の跡です。

## Beja

Villa Romana de Pisões

**住所**： Herdade de Almagrassa, Penedo Gordo, 7800-346

**電話**： +351 266 740 875

**Eメール**： divcom@uevora.pt, visitas@uevora.pt

ピゾンエス（Pisões）のローマ時代のヴィラ（住居）紀元前1世紀から西ゴート時代にかけての遺物を有するヴィラです。これまでに、列柱に囲まれた小さな中庭を中心とした40以上の部屋からなるヴィラの居住部分の一部発掘されています。その所有地は、鉄道とピゾンエスの峡谷で区切られるほど大きなものです。

## Castelo de Vide

Anta dos Coureleiros

**住所**： Sítio dos Coureleiros 7320 Castelo de Vide

コウレイロス（Coureleiros）の巨石遺跡 コウレイロスにはクロムレック（円形石柱群）が5ヵ所あり、これはその中でも最大級のもです。学術的な正式名称は、「アンタ・ドス・コウレイロスII（Anta dos Coureleiros II）」といいます。

Dólmen de Melriça

**住所**： Tapada da Anta ou Limpas da Melriça 7320 Castelo de Vide

メルリサ（Melriça）のドルメン（支石墓）通路がなく、変則的な多角形の墓室を持つドルメンです。元々使われていた支石のうち、現在も完全な形で残っているのは3基のみです。このドルメンは私有地にあるため、見学者は事前にヴィラ・ヴィゾーザ（Vila Viçosa）市役所に連絡を取る必要があります。同自治体の考古学課職員が見学者をグループに分けた上で同行します。

## Cuba

Ponte romana - Ribeira de Odivelas

**住所**： Vila Ruiva 7940 Cuba

ローマ橋 - リベイラ・デ・オディヴェラス（Ribeira de Odivelas）ローマ時代の橋が後世に改築されたもの。26の完璧なアーチで構成されています。その建造には墓碑が再利用されました。この橋は、ページャ（Beja）とエヴォラ（Evora）を結ぶローマ道の一部をなしています。

## Elvas

Anta do Olival de Monte Velho

**住所**： Herdade da Fontalva Elvas

オリヴァル・デ・モンテ・ヴェーリョ（Olival de Monte Velho）の巨石遺跡 巨石遺跡の支石のうち1基が半分に折れ、上半分が墓室の中に落下しています

## Estremoz

Villa lusitano-romana Santa Vitória do Ameixial

**住所**： Courela da Fonte da Moura

サンタ・ヴィトリア・ド・アメイシアル (Santa Vitória do Ameixial) のルジタニア ローマ時代のヴィラ(住居) このヴィラでは3～4世紀のモザイクが発見されています。これまでに浴場と居住区の一部が発掘されています。

## Évora

Anta do Barrocal

**住所**： Nossa Senhora da Tourega

パローカル (Barrocal) の巨石遺跡 多角形の墓室跡と、覆いとなる平石が現存する巨石遺跡です。丘上のモンテ・ド・パローカル (Monte do Barrocal) 農園から200メートルほど南西にあります。

Cromeleque e menir dos Almendres

**住所**： Herdade dos Almendres

アルメンドレス (Almendres) のクロムレック (円形石柱群) とメンヒル (巨大石柱) アルメンドレスのクロムレックは、2つの円の形に置かれた95基の石からなっています。一部の石には、図形のような幾何学的な模様が刻まれています。このクロムレックから少し離れたところに、高さ約4メートルのメンヒルがあります。最近の研究により、これらの石の大半は建造当時のままの位置にあることが証明されており、クロムレックは新石器時代 (紀元前4,000年) から銅器時代 (紀元前2,500年) のものと特定されています。

## Gavião

Anta do Penedo Gordo

**住所**： Torre Fundeira Alpalhão

ペネド・ゴルド (Penedo Gordo) の巨石遺跡 平均的な大きさの通路のある巨石遺跡であり、南側には埋葬塚跡が特に残っています。多角形の墓室は9基の支石からなり、通路は左右4基ずつの支石からなっています。

## Marvão

Ruínas romanas de Ammaia

**住所**： Quinta do Deão Estrada da Calçadinha, nº47330-318 S. Salvador de Aramenha - Marvão

**電話**： +351 245 919 089

**Eメール**: ammaia@ammaia.pt **ウェブサイト**： <http://www.ammaia.pt/>

アマイア (Ammaia) のローマ遺跡 古代ローマの都市であったアマイアの遺跡です。この遺跡には、ローマ道の一部と、セヴェール川 (rio Sever) にかかるポンテ・ヴェーリャ (古橋) と呼ばれる橋が含まれています。

Anta Grande do Zambujeiro de Valverde

**住所**： Herdade da Mitra Valverde

ヴァルヴェルデ (Valverde) のザンブジェイロ (Zambujeiro) の巨石遺跡 これまで見つかった中でイベリア半島最大のドルメン (支石墓) です。全体の直径が50メートルあり、高さ6メートルの墓室と外へつながる長い通路からなっています。国の史跡に指定されており、その発掘品はエヴォラ美術館 (Museu de Évora) で見るすることができます。

Templo romano de Évora

**住所**： Largo do Conde de Vila Flor 7000-804 Évora

エヴォラ (Evora) のローマ神殿 女神ディアナに捧げられたこの神殿は、ローマ帝国の皇帝崇拝に使用されていたと考えられています。この神殿は紀元1世紀ごろに建造されて以降、1870年に修復が行われるまで、武器庫や劇場や闘技場として使用されていました。最近の発掘調査によって、かつては柱廊と水の鏡が神殿を取り囲んでいたことが明らかになっています。

## Monforte

Ruínas romanas de Torre de Palma

**住所**： Herdade de Torre de Palma

トーレ・デ・パルマ（Torre de Palma）のローマ遺跡 このヴィラ（住居）は、紀元前1世紀から西ゴート時代まで使われていました。考古学的な発掘調査によって、馬や女神のモザイク画、マルス神に捧げた碑文などが発掘されています。

## Monsaraz

Menir do Outeiro

**住所**： Outeiro Monsaraz

オウテイロ（Outeiro）のメンヒル(巨大石柱) オウテイロのメンヒルは高さが6メートルもある、ポルトガル国内で最大のもです。このメンヒルは1964年に倒れた状態で発見されましたが、1960年代の終わりに立った状態に復元されました。

## Montemor-o-Novo

Anta Capela de São Brissos

**住所**： Lugar de São Brissos 7050 Montemor-O-Novo

サン・ブリッソス（São Brissos）の礼拝堂  
後世になってキリスト教の礼拝堂に作りかえられた巨石墳墓です。

Parque Arqueológico do Escoural

**住所**： Herdade da SalaLugar da Fonte Nova7050 Montemor-O-Novo

**電話**： +351 266 857 000

**Eメール**: [grutadoescoural@cultura-alentejo.pt](mailto:grutadoescoural@cultura-alentejo.pt) **ウェブサイト**: <http://www.patrimoniocultural.gov.pt/pt/patrimonio/itinerarios/alentejo-algarve/03/>

## Mora

Anta Capela de Pavia

**住所**： Rua de São Dinis Pavia

パヴィア（Pavia）のドルメン(支石墓)礼拝堂 ディニス王（17世紀）に捧げられたパヴィアのドルメン礼拝堂は、キリスト教用に作りかえられたポルトガルの巨石遺跡のひとつです。この礼拝堂の場合、ドルメンの墓室部分が礼拝堂の身廊に転用されました。

## Moura

Galeria Dolménica e Anta na Herdade da Negrita

**住所**： Herdade da Negrita 7860 Moura

エルダデ・ダ・ネグリタ（Herdade da Negrita estate）のドルメン（支石墓）回廊と巨石遺跡  
屋根部分の石が失われたドルメン（支石墓）の長い回廊と、通路のない巨石遺跡があります。

## Mourão

Cromeleque do Xerez

住所：7200-175 Reguengos de Monsaraz

電話：+351 266 508 052

Eメール: [turismo@cm-reguengos-monsaraz.pt](mailto:turismo@cm-reguengos-monsaraz.pt) ウェブサイト：  
<https://www.cm-reguengos-monsaraz.pt/locais/cromeleque-do-xerez/>

シェレス (Xerez) のクロムレック (石柱群)  
シェレスのクロムレックは、円形ではなく四角形をしているところがユニークです。中央には大きめのメンヒル (巨大石柱) があり、その周りを小さめの石が取り囲んでいます。このクロムレックの巨石は、農作業によって散逸していたため、研究調査を行ってようやく復元が可能となりました。

## Nisa

Anta de São Gens

住所：Alpalhão, Nisa

アルバランからファダゴサ・デ・ニサ温泉に至る道沿いに位置する聖ゲネシウスのアンタ1は、内側に傾いた5本の長方形の柱が地面に突き刺さり、1枚の石板で覆われたシンプルな円形の巨石記念碑です。それは部屋からドアで隔てられた短い廊下があり、そのいくつかの石が保存されています。

新石器時代の終わり (紀元前3500年~2000年) にさかのぼるこの記念碑は、ニサ・アンタの町としても知られ、聖ゲネシウスの4つのアンタのグループの一部であり、その中で最も保存状態が良く、最もよく知られています。

## Odemira

Pardieiro

住所：São Martinho das Amoreiras 7630 Odemira

パルディエイロ (pardieiro) は鉄器時代の共同墓地であり、サン・マルティーンニョ・ダス・アモレイラス (São Martinho das Amoreiras) とコルテ・マリヤン (Corte Malhão) を結ぶ道の近くにあります。この遺跡は1971年に発見され、発掘調査の結果、長方形に近い形に並列に並べられた11の墓石が見つかりました。墓石は大きな平石で、下の片岩に掘られた墓を覆っており、彫刻や装飾が施されているものもあります。初期のイベリア半島鉄器時代の言語による碑文が刻まれた柱が発見されたことによって、この遺跡が考古学的に重要な遺跡として認知されるようになりました。その柱は現在、ベージャ地方博物館 (Museu Regional de Beja) が所蔵しています。

Menir do Patalou

住所：Alpalhão, Nisa

パタロウ・メンヒルは、重さ約7トン、高さ4メートルの花崗岩です。

この巨石記念碑は2016年に再発見され、再建され、イベリア半島で最も大きなメンヒルの一つとなっています。

## Reguengos de Monsaraz

Anta do Olival da Pêga

住所：Telheiro - Reguengos de Monsaraz

Menir da Santa Margarida

住所：Corval - Reguengos de Monsaraz

## Rio Maior

Villa Romana de Rio Maior

住所：Rua Doutor Francisco Barbosa2040 Rio Maior

電話：+351 243 991 121

Eメール: turismo@cm-riomaior.pt ウェブサイト：

<https://www.turismoriomaior.pt/conte.php?a=67>

紀元1世紀から3・4世紀にかけて建設され、拡張されたこの建物は、マイオール川のほとりに建設され、リオ・マイオール地域を構成する核となっています。

ヴィラのパルス・ウルバーナ (Pars Urbana) の一部、772平方メートルに所有者が家族と一緒に住んでいたエリア (4つの廊下、6つの部屋、2つの後陣) が発見されています。将来的には、他のエリアも明らかにし、寺院やお風呂を見つけることができることが望まれます。

これまでに収集された遺跡は、主にヴィラの素晴らしい豪華さと豊かさを示す作品で構成されています。少なくとも5つの彫像の断片と、ほぼ無傷の断片、リオ・マイオールのニンファ・フォンテナリア (Ninfa Fontenária、噴水ニンフ) も復元されました。

1983年にリオ・マイオール市議会の博物館、歴史、考古学、文化遺産部門によって発見され、1992年から1993年にかけて、遺跡を評価するためにヴィラの敷地全体を覆う試掘用の塹壕が開かれました。1995年に発掘が始まり、最初の段階は1999年まで続きました。

## Santarém

Templo Romano de Scalabis

住所：Largo da Alcáçova Santarém

スカラビス (Scalabis) のローマ神殿

このローマ遺跡の一部は、ラルゴ・ダ・アルカソヴァ (Largo da Alcáçova) の城を改築する際に行われた作業の過程で発見されました。これらはローマ神殿の基壇であり、およそ15メートルにおよぶ四角形をしています。また、高さが4メートルある南側のファサードは、最も保存状態の良い部分です。建物自体は中世に行われた一連の改築作業によって破壊されてしまいましたが、南西の角にはセラ(Cella)と呼ばれる神像安置所があったことを示す考古学的な痕跡が若干残されています。しかし残念なことに、データが不十分のため完全に復元することはできません。なお、この地域における現在までの考古学的調査の結果によって、この遺跡は紀元前1世紀ごろのものであることが明らかになっています。

## Santiago do Cacém

Ruínas romanas de Miróbriga

住所： Herdade dos Chãos Salgados Santiago do Cacém

電話： +351 269 818 460 ファックス： +351 269 818 461

Eメール: mirobriga@ippar.pt ウェブサイト：

<http://mirobriga.drealentejo.pt>

ミロブリガ (Miróbriga) のローマ遺跡

青銅器時代終わりから、鉄器時代までさかのぼる要塞化された居住地で

あり、ローマ時代にはこの場所に都市が建設されました。ここを訪れた

人は、神殿や商業区域、浴場、道路、競技場などの跡を目にすることが

できます。古代ローマにおいて競技などを開催する主要施設であった円

形競技場 (広さ360m X

74m) は、25000人の観客を収容することができました。

## Vidigueira

Villa Romana de São Cucufate

住所： São Cucufate - Vila de Frades

電話： .

Eメール: dgpc@dgpc.pt ウェブサイト： <http://www.patrimoniocultural.pt>

特色とサービス:

ショップ; ガイドツアー; レストラン;

バリアフリー案内:

身体の不自由な方でもアクセス可能;

サン・ククファテ (São Cucufate) のローマ時代のヴィラ(住居) 紀元1世紀につくられ、2世紀の前半に改築されたこのローマ時代のヴィラは、建て替えのために4世紀に壊されました。そのとき新築されたこの建物は現在も見る事ができます。この建物は、中世においてサンティアゴ騎士団の修道院として使用された後、16世紀以降放置されていました。ヴィラの中央部は、極めて堂々たる様相を呈する左右対称の2つの塔に縁取られています。このヴィラは「サンティアゴの遺跡」とも呼ばれています。

## ポルトと北部地方

### Arcos de Valdevez

Núcleo Megalítico do Mezio

住所： Serra do Soajo Arcos de Valdevez

メジオ巨石地区 先史時代の埋葬地に関するこのコレクションには、山の高原地帯全体に分散する約12の遺跡が含まれています。「マモア3 (Mamoa 3)」（通常は「メジオ・ドルメン (Dólmen do Mezio)」と呼ばれています) は最も良く知られた例であり、依然として埋葬塚の痕跡 (土で覆いがかけられ、埋葬地には小石が敷き詰められています) が残されており、環状列石 (ドルメン) が良好な状態で保存されています。この場所での考古学的な発掘により、5,000年の歴史を持つこれらの古い遺跡において行われたバンダル人の風習を数多く明らかにし、また私たちの祖先が成し遂げたこれらの技術的な偉業の基礎をなす技術的・建築的な条件をいくつか明らかにすることが可能になりました。埋葬時に使用されたかなりの数の物品が復元されています。この場所で旅行者は、発掘さ

れた遺跡に関する情報パネルを参考にして、原始的な建築物を全体的に理解することができます。

## Barcelos

Balneário da Pena Grande

住所：Galegos Santa Maria

Penedo "Laje dos Sinais"

住所：Carvalhas

Ruínas do Castelo de Faria e estação arqueológica subjacente

住所：Lugar do Castelo de Faria 4750 Abade de Neiva

カステロ・デ・ファリアの遺跡とそれに関連する考古学的拠点

カステロ・デ・ファリア (Castelo de

Faria) の遺跡とそれに関連する考古学的拠点

青銅器時代、鉄器時代、ローマ時代および中世にさかのぼる建物です。

## Braga

Fonte do Ídolo

住所：Rua do Raio 4700 Braga

偶像の泉 ローマ時代にさかのぼる岩の聖域で、人間の姿と碑文が浮き彫りにされています。「偶像の泉」(Fonte do Ídolo) としても知られています。

## Felgueiras

Villa Romana de Sendim

住所：Rua da Villa Romana 4610-748 Sendim, Felgueiras

電話：+351 255 312 636

Eメール: villaromana.sendim@cm-felgueiras.pt ウェブサイト: <https://cm-felgueiras.pt/viver/cultura/centro-interpretativo-villa-romana-de-sendim/>

紀元1世紀後半に建設が開始されたこのヴィラは、4世紀の終わりから大幅に改造され、5世紀と6世紀にそれぞれシュヴァーベンと西ゴート族の領地に抵抗しました。6世紀半ばに大火事になった当時はそのまま放置されましたが、それから廃墟の一部が再建されることもあったと考えられています。

もともとはヴィゼラ川の流域に隣接した小さな谷の上の高原に作られたヴィラは、農業複合施設に統合され、いくつかの居住区画で構成されていました。居住区画のいくつかは、モルタル (opus signinum) と多色モザイクを破碎セラミックと混ぜ合わせた床を備えており、幾何学的なモチーフになっています。かつては中庭 (ペリスタイル) を取り囲むように構成されていましたが、4世紀に始まった改造工事の際に、より大きなお風呂が追加されました。

1992年に家を建てるための基礎の発掘中に発見されました。フェルゲイラス (Felgueiras) 市議会は、発掘エリアを拡大するために土地を取得し

ました。考古学研究が始まった1997年12月に公益財産に分類されました

。

何千もの断片からなる遺跡は、遺跡を支える通訳センターに展示されて

います。それは非常に多様で、一般的な陶磁器、輸入された高級陶磁器

、ガラス製品、金属製の物体、青銅のコインの何千もの断片があります

。

## Freixo de Espada à Cinta

Gravuras rupestres do Mazouco

住所：Mazouco, Freixo de Espada à Cinta

1981年に発見されたマゾウコの岩刻画は、ポルトガルで発見された初の露天の旧石器時代の岩絵遺跡です。

マゾウコから数キロメートルのところに、ドウロ川から数メートルのところにある片岩に彫られた「マゾウコの馬」を見つけることができます。これはつつきと研磨の技法を使って作られています。ドウロ川の岸辺に降りる短くて急な小道を通して彫刻にたどり着くことができます。この遺跡は、ドミンゴ・ガルシア地域（スペイン、セゴビア）、シエガ・ベルデ考古学遺跡（スペイン、サラマンカ）、コア考古学遺跡（ポルトガル、ヴィラ・ノヴァ・デ・フォス・コア）とともに、この地域の重要な考古学的発見のコレクションを形成しています。

## Guimarães

シタニア デ プリテイロス (Citânia de Briteiros)

住所：Estrada Nacional 309, Km 55, Briteiros, São Salvador4800

Guimarães

電話：+351 253 478 952

Eメール: [citania@msarmento.org](mailto:citania@msarmento.org) ウェブサイト:

<http://www.csarmento.uminho.pt>

特色とサービス:

ショップ; ガイドツアー; [fieldmaçafetaria](#);

支払い:

クレジットカード利用可;

バリアフリー案内:

身体障害者専用駐車スペース; 入口へのバリアフリー経路: 全部;

バリアフリー入口: 全部; 特別なお手伝いが必要な方の受付エリア;

建物内のバリアフリー通路: 一部; バリアフリーのエリア/サービス: 店舗,

バー/カフェ, 身体障害者用設備; バリアフリー情報: 案内板, 凡例,

双方向型・視聴覚資料を用いた発表, 触覚的探索用のアイテム;

支援スキル: 運動障害, 精神障害; 利用可能な支援プロダクト/サービス:

精神障害;

ギマランイシュ(Guimarães)から数キロ離れて、アベ渓谷の上方、サンホマオン(São Romão)丘の頂にあるシタニア デ プリテイロスは、景色の美しさに加えて、その壁、アーバンイズムそして建築物の規模と記念碑的価値によって原史時代のイベリア半島の最も表現豊かな開拓地の1つとして、来る人を驚かせています。

「街」の初期の痕跡は、一連の壁によって守られた街路からはっきり見て取ることができます。壁の内側には、円形または長方形の住居が時に小さな「ブロック」として配置され保護されています。

シタニア デ プリテイロスは、ポルトガルとイベリア半島の考古学の歴史において範例となる史跡の1つです。その研究は、フランスコ

Necrópole e Castro de São Paulo

住所：Calçada de Alpajares, Freixo de Espada à Cinta

フレイショ・デ・エスパダ・ア・シントアのサンパウロのネクロポリスとヒルフォートは、カルサダ・デ・アルパハレスの歩道沿いに位置する、考古学的にも歴史的にも興味深い場所です。

高さ約60メートルの円形ヒルフォートは、紀元前6世紀以降イベリア半島に住んでいた古代ケルト人に特有の防御構造の一例です。この古い壁の一部はまだここで見るすることができます。

そのすぐ隣には、8世紀から11世紀に遡るネクロポリスがあります。岩に掘られ、蓋で封印されたり、石や土で覆われたりしたこの小さな墓群は、その時代に関する重要な考古学的証拠を提供しています。

マルティンス サルメントが考古学調査の最初のキャンペーンを指揮した1874年に始まり、後年まで続きました。20世紀に、多くの考古学者によって発掘、復元活動が再開され、継続的な調査の結果、今日上部のプラットフォーム（アクロポリス）と東斜面の広い範囲で遺構が見えるようになりましたが、開拓地の地下層には依然として多くの秘密と価値ある科学的な情報が隠されています。

サンホマオン丘が利用され始めた最初の段階は、東斜面の花崗岩の崖面に岩彫刻を用いて様々なパネルが彫られた新石器時代および金石併用時代にさかのぼります。住民としての土地の専有は、大西洋青銅器時代の一部である紀元前1000年の初頭にさかのぼります。しかしながら、シタニアの黄金期は、紀元前2世紀にさかのぼります。西暦1世紀と2世紀の間に、イベリア半島北西部がローマ帝国に併合された後も依然として住民がいました。10世紀になると、アクロポリスには古い開拓地のがれきの中に小さなキリスト教の修道院が築造されました。

シタニアの遺構、地下層そして発掘品は、数千年の歴史の目撃者です。居住の証拠となる様々な遺物は、プリテイロスのソーラダボンチにあるムゼウダクルトウーラカストレジャMuseu da Cultura Castreja（カストロ文化博物館）で観ることができます。

## Marco de Canaveses

Estação Arqueológica do Freixo - Tongobriga

住所：Rua António Correia de Vasconcelos, 514630-095 Marco de Canaveses

電話：+351 255 531 090 / 934 057 060

Eメール: [tongobriga@culturanoorte.gov.pt](mailto:tongobriga@culturanoorte.gov.pt) ウェブサイト: <http://culturanoorte.pt/pt/patrimonio/estacao-arqueologica-do-freixo-tongobriga/>

特色とサービス:

ショップ; ガイドツアー; レストラン; [fieldmacafetaria](#);

### フレイショの遺跡 - トンゴブリガ

マルコ・デ・カナヴェゼズ [Marco de Canaveses]  
にあるサンタ・マリア・ド・フレイショ [Santa Maria do Freixo]  
の村の下にローマ都市トンゴブリガ [Tongobriga] の遺跡があります。遺跡が散在するおよそ15ヘクタールのエリアは国定史跡として分類されており、北部地域文化局の管理下にあります。

遺跡の一部はすでに考古学者による調査が行われ、観光客が訪れることができます。

- 外壁が残るおよそ13ヘクタールのエリアは、フレイショの村全体におよびます。その内部には紀元1世紀～5世紀の間に建設された前ローマ時代やローマ時代の住居施設も収容されています。

- 要塞化した村（前ローマ時代）の水浴場や公会広場、ローマ風呂があり、風呂は紀元1世紀および2世紀にその起源をさかのぼります。これらの施設はフレイショの村がある丘の麓の外壁の外にあります。

ローマ時代の広場や風呂はこの遺跡のかつての図書館を構成しており、その歴史的価値からひと際目を引く存在です。

フレイショの遺跡には観光客が利用できる施設がいくつかあります。利用案内センター（来訪者用の受付を収容）とトンゴブリガがローマ帝国の一部となったときに起こった住民生活の変化についての常設展示があります。レストラン/カフェテリア、講堂（遺跡についてのドキュメンタリーを鑑賞可能）、訪問することができる4つの考古学的遺跡や数多くの仮説展示場があります。

フレイショ [Freixo]

の村は、居心地のいい歴史を感じる場所であり、「ポルトガル [Portugal] の歴史村」の一部をなしています。中でも注目すべきはサンタ・マリアの小教区教会です（その下にはモザイクを伴うローマ時代の住居の遺跡があります）。20世紀の初めに終了したポルトガル北部最大級の祭り（

いわゆる「レント・フェア」)に関連する建物が複数あります。そしてカナヴェゼズのカピタン・モール(司令官)であるアントニオ・デ・セルパ・ピント [António de Serpa Pinto] がフランスの侵略を受けた時に発注し建設された領主の館があります。

## Mirandela

Torre de Dona Chama

住所: Torre de Dona Chama

ドナ・チャマ塔 (Torre de Dona Chama)  
鉄器時代/ローマ時代の要塞集落です。サン・ブラス (São Brás) のローマ時代前の要塞としても知られています。

## Paredes de Coura

Antela da Cruz Vermelha

住所: Área Protegida de Corno de Bico 4940 Paredes de Coura

アンテラ・ダ・クルス・ヴェルメーリャ コルノ・ピコ保護地区 (Área Protegida do Corno

Bico)にあるアンテラ・ダ・クルス・ヴェルメーリャ (Antela da Cruz Vermelha) (赤十字ドルメン)は紀元前2500年頃から始まりました。円形のこのドルメンは、赤く塗られた十字が刻まれた礎石を持つ巨大な石でできています。5つのドルメンのグループの一部であるアンテラ・ダ・クルス・ヴェルメーリャは、この地域で唯一保存されているドルメンです。

## Tabuaço

Citânia da Longa

住所: Longra

シタニア・ダ・ロンガ (Citânia da Longa)  
このローマ時代前の要塞集落の北側にある2つの壁は今でも見ることができます。第1の壁は今でも保存状態が非常に良く、高さ2メートル、幅1メートルを超える大きさです。要塞への入り口は、実際には依然としてそのままの姿を残しています。これらの石は、槍の穂先の形に置かれており、要塞化された塔の痕跡は今でも見ることができます。第2の壁は第1の壁ほど保存状態が良くありませんが、第1の集落の壁と同様、輪郭は今でも完全に見ることができます。

## Viana do Castelo

Citânia de Santa Luzia

住所: Monte de Santa Luzia 4900-910 Viana do Castelo

電話: +351 258 825 917

Eメール: [citania@culturante.pt](mailto:citania@culturante.pt) ウェブサイト:

<http://culturante.gov.pt/pt/patrimonio/citania-de-santa-luzia>

### 特色とサービス:

ショップ; ガイドツアー;

### バリアフリー案内:

身体の不自由な方でもアクセス可能; 入口へのバリアフリー経路: 全部;  
バリアフリー入口: 全部; 特別なお手伝いが必要な方の受付エリア;  
建物内のバリアフリー通路: 全部; バリアフリーのエリア/サービス: 店舗;  
バリアフリー情報: 案内板, 双方向型・視聴覚資料を用いた発表;

シターニャ・デ・サンタ・ルチア（サンタ・ルチアの要塞集落） [Citânia de Santa Luzia]

シターニャ・デ・サンタ・ルチアにある鉄器時代/ローマ時代の要塞化された集落であり、地元ではシダーデ・ヴェリャ(旧市街)[Cidade Velha]として知られています。ここは北ポルトガルの中で最も有名なカストロス(要塞集落)[castros]の一つです。また、原始時代ならびにアルト・ミーニョ[Alto Minho]のローマカトリック教化の研究に最も重要な場所であることは疑いようもありません。

この地の戦略的な意図は、川の沿岸の一角を占有するだけでなく、特にリマ川河口の出入口を管理することにあります。古典古代にはここからほぼ全ての航路に航行できた可能性があります。

この集落は特殊な特徴を持っており、特に建築学上の観点から見ても特殊です。例えば多角形を成すように配置した石材を使用している点、この集落の家の中には玄関またはアトリウムを備えた円形の間取りになっているものがありました。

中には、パンを焼くオーブンを備えていたことが分かる家もあります。

## Vila Nova de Foz Côa

Parque Arqueológico do Vale do Côa

住所：Rua do Museu 5150-610 Vila Nova de Foz Côa

電話：+351 279 768 260/1 ファックス：+351 279 768 270

Eメール: [museu@arte-coa.pt](mailto:museu@arte-coa.pt) ウェブサイト： <http://www.arte-coa.pt>

ヴァーレ・ド・コア考古学公園 初春にアーモンドの木が満開になり、秋にはブドウの木が燃えるような赤い葉で覆われるポルトガル北東部の雄大な山全体では、南からドウロ川（Rio Douro）が流れ込み、その支流は現在では世界中で名前を知られるようになりました。これはコア川（Rio Côa）であり、広大な渓谷には長い年月の間栄えてきた芸術の例が数多くあります。川岸を形作る岩の構成は、1,000年を経るたびに、先祖の創造的衝動によって私たちに残された何千もの彫刻に覆われたパネルに作り変えられてきました。後期旧石器時代の始まりにさかのぼるこれらの屋外「パネル」では、私たちが過去25,000年の年月に触れさせてくれる芸術的活力と熟達した技術を証明しています。この巨大なアート・ギャラリーでは、新石器時代と鉄器時代の記録を見ることができると思えば、次に2,000年の歴史を一気に下って、宗教的な描写、名前、日付の近代に至り、わずか数十年前の地元の製粉業者の子供たちによって描かれた人物像すら見ることができます。あらゆるモチーフが岩に刻まれており、フランス側バスクの洞窟で隠されていたものが19世紀に発見され、世紀の変わり目にはすでに偉大な芸術と呼ばれるようになった作品のように、西ヨーロッパの他の同時代の作品に共通するテーマ、技術、様式が示されています。しかし、洞窟の奥の隠れた場所から屋外に突然現れたヴァーレ・ド・コア（Vale do Côa）の芸術を私たちが見ることができたのは、ようやく20世紀の終わりになってからのことでした。そこでは毎日、そして季節によっても変化する光と影の相互作用によって、その芸術が同時に現れたり隠れたりする幻想的な露出と隠蔽の遊戯に誘われます。コア川はドウロ川に向かって南から北に流れており、終わりの17キロは最近ポルトガルの最初の考古学公園となった渓谷を形成しています。1998年12月2日以降、この公園はUNESCOの世界遺産に登録されています。どちらもヴィラ・ノヴァ・デ・フォス・コア（Vila Nova de Foz Côa）に事務所を持つヴァーレ・ド・コア考古学公園（Parque Arqueológico do Vale do Côa）および国立岩石芸術センター（Centro Nacional de Arte Rupestre）が続いて同時に作られたことで、重要な政府の決定と、さまざまなレベルでポルトガルの岩絵、考古学、文化遺産の状況に明確に重大な影響を与える決定が下されたことが示されました。

洞窟に永遠に閉じ込められていた岩絵の古い神話に最終的な終わりを告げたこの一連のすばらしい屋外彫刻はすべて、専門家のガイドで行われる組織的な訪問において鑑賞することができます。なお、訪れる前には予約されることを強くお勧めします。訪問が可能なのは、ヴィラ・ノヴァ・デ・フォス・コアに非常に近く、最初に発見された彫刻群であるカナダ・ド・インフェルノ (Canada do Inferno)、ムシャガタ (Muxagata) のリベイラ・デ・ピスコス (Ribeira de Piscos)、カステロ・メルオール (Castelo Melhor) の村に近いペナスコサ (Penascosa) の3つの地区です。考古学公園のちょうど真ん中に位置するキンタ・ダ・エルヴァモイラ (Quinta da Ervamoira) では、彫刻を見学する人たちのために補足的なサービスが提供されています。ここには、非常に古くから行われているパン作りの一連の工程と、この地域で依然としてもう1つの最も優れた財産であるドウロ・ワイン生産の伝統的な特徴はもちろんのこと、この地域と古くから受け継がれてきた習慣を完全に説明してくれる博物館があります。

## Vila Pouca de Aguiar

Parque Arqueológico de Tresminas

住所：Centro Interpretativo de Tresminas Largo do Cruzeiro s/n 5450-296 Tresminas (Vila Pouca de Aguiar)

電話：+351 259 458 091

Eメール: geral@tresminas.com ウェブサイト：  
<http://www.tresminas.com>

### 特色とサービス:

ガイドツアー;

### バリアフリー案内:

身体の不自由な方でもアクセス可能;

トレスミナス・考古学公園 トレスミナス考古学公園 (Parque Arqueológico de Tresminas) では、ローマ時代最大の金鉱の1つをアウグストゥス皇帝 (紀元前27年～西暦14年) の統治からセプティマス・セヴェルス (西暦193年～211年) の時代まで活動が行われていたことを示す証拠とともに見ることができます。この地域は露天掘り方式で採掘が行われ、ここで人間の多大な労力が費やされたことを証明する大きなほみや作られており、鉱石の輸送、流れ、処理を展示するギャラリーの複雑なネットワークを形成しています。水はティニェラ川 (Rio Tinhela) とリベイラ・ダ・フラガ (Ribeira da Fraga) からの水路系によって供給されていました。古代からこの地域に人間がいたことは、シダデーリャ・デ・ジャレス (Cidadelha de Jales) にあるローマ時代の道路や橋、丘陵要塞などの考古学的遺跡が数多く存在することから示されています。この公園の周囲にある自然遺産も同じく重要であり、自生植物は低木地 (エニシダ、ヒース、ハリエニシダ、ヒトツバエニシダ、コークスクリュー・ヘーゼル) とオークの森で構成されており、非常に独特な特徴を持っています。また、この地域に巣を作るいくつかの猛禽類やギャラリー内に生息するコウモリも見ることができます。

## ポルトガル中部地方

## Alcobaça

Villa Romana de Parreitas

住所：Bárrio (Alcobaça)

電話：+351 262 581 959

パレイタスのローマ時代のヴィラ(住居) (Villa Romana de Parreitas) アルコバッサ(Alcobaça)郡下のバリオ(Bárrio)にあるパレイタスのローマ時代のヴィラ(住居) (villa romana de Parreitas)は、ペデルネイラ湖(Lagoa da Pederneira)近くの考古学スポットです。遺跡からは、この地でたいへん古くから人間の生活の営みがあったことがわかります。その歴史はおそらく鉄器時代にまでさかのぼり、紀元1世紀から4世紀にはローマ化が進みました。ここに暮らしていた人々は、農耕や家畜の飼育のほか、湖で漁業にたずさわっていたと考えられています。

土器類、装飾品、道具類などの出土品は、バリオ専門博物館(Museu Monográfico de Bárrio)で見られます。

## Belmonte

Torre de Centum Cellas

住所：Catraias da Torre

センタム・セラス (Centum Cellas) の塔  
ローマ時代に建造された3階建ての塔で、中世には防衛塔として使用されました。本来どのような目的でつくられたのかは分かっていません。

## Conímbriga

Ruínas de Conímbriga

住所：Conímbriga Condeixa-a-Nova

ポルトガル国内でも最も内容の充実した遺跡のひとつ、コニンブリガ (Conímbriga) は、元は鉄器時代後期にケルト民族のコニイ族の居住地として使用されていました。その後、紀元前139年にローマ人に征服され、ローマの植民地となりました。紀元2世紀にはローマ皇帝アウグストゥスの下で栄華を極め、公衆浴場やフォルム (公共広場) が建設されました。復元されたフォルムを博物館で見ることができます。ローマ帝国の衰退にともない、4世紀後半に堅固な防壁が築かれました。しかしこの防壁も468年のシュヴァーベン人による攻撃から街を守ることはできず、コニンブリガは没落していきます。街はさびれ、残った住民はさらに北のコンデイシャ・ア・ヴェーリャ (Condeixa-a-Velha) へと移り住んでいったのです。20世紀に行われた大規模な発掘によって、浴場や水源から3,400メートル以上続く水道、そして恐らく6世紀のものと見られるキリスト教のバシリカ聖堂跡などを含む、充実した複合的な建造物群が姿を現しました。ここを訪れた人は、素晴らしい多彩色のモザイクが施された床が今も保たれている立派な家々に感動することでしょう。

中でも特に注目すべきはカーザ・デ・カンタペール (Casa de Cantaber / カンタペール家邸宅) とカーザ・ドス・レプーシヨス (Casa dos Repuxos / 噴水の家) です。カーザ・デ・カンタペールは、3世紀の典型的な住宅で、西ローマ帝国が支配した地域全体における最大級の邸宅です。一方、カーザ・ドス・レプーシヨスには神話や日常生活の場面を描いた569m<sup>2</sup>のモザイクの床があり、観賞用の花壇と噴水のある列柱に囲まれた中庭が特徴です。

## Figueira de Castelo Rodrigo

Torre das Águias

住所：Almofala Figueira de Castelo Rodrigo

現在は完全な廃墟となっているアルモファラ（Almofala）郊外に立つトーレ・ダス・アギアス（Torre das Águias）（元はローマ神殿だったもの）の地に立つと、ムーア人がキリスト教徒との戦いの過程でこの地域へ侵入し、領主がこの地から追われてイスラム教徒たちに殺害された、遠い中世の頃に思いをめぐらせることができます。

この悲しい出来事を伝えられた領主の妻が、敵が近づいている事を知り、窓から飛び出して逃げなくてはならなくなった時、アギアルの聖マリアに助けを請いました。すると奇跡が起こり、塔の窓を軍馬が横切って領主の妻を乗せ安全なところへと運んだのです。

そしてこの奇跡的な出来事を目撃したムーア人の首領は、その場でキリスト教へと改宗したのでした。

## Ourém

Monumento Natural das Pegadas de Dinossáurio

住所：Estrada de Fátima - Bairro 2490-216 OURÉM

電話：+351 249 530 160 ファックス：+351 249 530 169

Eメール: [dinossaurios@hotmail.com](mailto:dinossaurios@hotmail.com) ウェブサイト：

<http://www.pegadasdedinossaurios.org>

天然記念物：恐竜の足跡（Monumento Natural das Pegadas de

Dinossáurio）アイレ山脈(Serra de Aire)の東端、パイロ(Bairro)の村近郊

では、ジュラ紀の重要な化石記録地球に生息した最大の生物、竜脚

類の恐竜の足跡に出会えます。約6万平方メートルにわたって広が

る岩場の表面には、無数の足跡が点在しています。この足跡は約1億7

500万年のあいだ眠りつづけ、採石所の開発の際、偶然発見されました。

四足草食恐竜の形跡は、きわめて保存状態のよい20本の歩行跡からなり、長いものは142から147メートルにわたって続いています

。天然記念物を見学するに先だってビデオ解説があり、見学中は情報掲

示板で教育的ルートが組まれているので、地球の歴史や恐竜についてよ

り理解を深めることができます。また、事前に予約すればガイドツアー

も可能です。

---

## Viseu

Cava de Viriato

住所： Campo de Viriato Viseu

木々が生い茂るこの散策エリアには、周囲約2kmにおよぶ八角形の塹壕地帯を示す土壁が一部残っています。歴史学者らによると、この場所は様々なローマ道の交差点であり、これらの道を監視するローマ軍が野営地として使用したとされています。一方、もっとロマンに富んだ解釈をする人々は、エストレラ山脈 (Serra da

Estrela) からモンテムロ山脈 (Serra de Montemuro) へと移動していくルジタニア人が牛たちを集めた場所であると言っています。

カヴァ・デ・ヴィリアト (Cava de Viriato) は考古学者たちにとっては重要な場所かもしれませんが、真実がどうであれ、2,000年以上前につくられた土の斜面があるだけなので、芸術的価値はありません。ただ、ローマ軍と戦った地元の戦士であるルジタニアの英雄ヴィリアトウス (Viriatus) を称え、5人の羊飼いに囲まれてたつ英雄のブロンズ像が設置されています。また、毎年聖マテウスの市が開かれる場所は、このカヴァ(塹壕地帯)の近くにあります。

---

## リスボンとその周辺地方

### Lisboa

Ruínas do Teatro Romano de Lisboa

住所： Rua de São Mamede ao Caldas, nº3 A/B 1100 Lisboa

リスボン (Lisbon) のローマ劇場跡 訪れた人は、発掘された貴賓席部分、観覧席の始めの部分、およびプロセニウム・アーチ(舞台を額縁のように区切るアーチ)の一部を見ることができます。18世紀に記された文書によると、この劇場はネロの時代に再建されています。